

日本環境変異原ゲノム学会 50 年史

西 暦	和 暦	学 会 長	所 属	年 大 会	大 会 長	所 属	開 催 地	関 連 ト ピ ッ ク ス
1969	昭和 44 年							米国 EMS 設立
1970	昭和 45 年							第 1 回米国 EMS
1971	昭和 46 年							AF-2：金魚問題 / 培養ヒトリンパ球に CA
1972	昭和 47 年	田島彌太郎	国立遺伝学研究所	第 1 回	田島彌太郎	国立遺伝学研究所	東京	日本環境変異原研究会発足；JemsNews 発刊
1973	昭和 48 年			第 2 回	田島彌太郎	国立遺伝学研究所	三島	AF-2 変異原性問題；1st ICEM（アシロマー）
1974	昭和 49 年			第 3 回	外村 晶	東京医科歯科大学	東京	AF-2 発がん性問題⇒食添使用禁止
1975	昭和 50 年			第 4 回	菅原 努	京都大学	京都	Ames 試験連絡協議会発足
1976	昭和 51 年			第 5 回	杉村 隆	国立がんセンター	東京	
1977	昭和 52 年			第 6 回	近藤宗平	大阪大学	吹田	日本環境変異原学会に改組；2nd ICEM（エンジンバラ）
1978	昭和 53 年	杉村 隆	国立がんセンター	第 7 回	賀田恒夫	国立遺伝学研究所	三島	
1979	昭和 54 年			第 8 回	岩原繁雄	食品薬品安全センター	箱根	奨励賞創設；学会誌 環境変異原研究発刊；安衛法 Ames 試験開始
1980	昭和 55 年			第 9 回	早津彦哉	岡山大学	岡山	
1981	昭和 56 年			第 10 回	石館 基	国立衛生試験所	東京	3rd ICEM（東京）
1982	昭和 57 年	賀田恒夫	国立遺伝学研究所	第 11 回	黒田行昭	国立遺伝学研究所	修善寺	大会に改称；MMS 研究会発足
1983	昭和 58 年			第 12 回	大西克成	徳島大学	徳島	医薬品遺伝毒性試験ガイドライン
1984	昭和 59 年			第 13 回	白須泰彦	残留農薬研究所	東京	
1985	昭和 60 年			第 14 回	滝澤行雄	秋田大学	秋田	4th ICEM（ストックホルム）
1986	昭和 61 年	松島泰次郎	東京大学	第 15 回	松島泰次郎	東京大学	東京	
1987	昭和 62 年			第 16 回	西岡 一	同志社大学	京都	
1988	昭和 63 年			第 17 回	長尾美奈子	国立がんセンター	東京	
1989	平成元年			第 18 回	松下秀鶴	国立公衆衛生院	東京	5th ICEM（クリーブランド）
1990	平成 2 年	早津彦哉	岡山大学	第 19 回	常盤 寛	福岡県衛生公害センター	福岡	
1991	平成 3 年			第 20 回	渡部 烈	東京薬科大学	東京	
1992	平成 4 年			第 21 回	鎌滝哲也	北海道大学	札幌	
1993	平成 5 年			第 22 回	祖父尼俊雄	国立衛生試験所	東京	6th ICEM/1st IWGT（メルボルン）
1994	平成 6 年	祖父尼俊雄	国立衛生試験所	第 23 回	木苗直秀	静岡県立大学	静岡	学会賞・研究奨励賞創設
1995	平成 7 年			第 24 回	森本兼曩	大阪大学	吹田	Ames 試験連絡協議会が BMS 研究会に改称

1996	平成8年			第25回	清水英佑	東京慈恵会医科大学	東京	ICH ガイドライン (S2A)
1997	平成9年			第26回	澁谷 徹	食品薬品安全センター	秦野	7th ICEM (ツールズ)
1998	平成10年	大西克成	徳島大学	第27回	菊池康基	ラビトン研究所	大阪	ICH ガイドライン (S2B)
1999	平成11年			第28回	森 秀樹	岐阜大学	岐阜	2nd IWGT (ワシントン)
2000	平成12年	木苗直秀	静岡県立大学	第29回	山添 康	東北大学	仙台	JEMS 理事会制度導入
2001	平成13年			第30回	出川雅邦	静岡県立大学	静岡	8th ICEM (静岡)
2002	平成14年	林 真	国立医薬品食品衛生研究所	第31回	菊川清見	東京薬科大学	東京	功労賞創設; 3rd IWGT (プリモス)
2003	平成15年			第32回	川西正祐	三重大学	津	
2004	平成16年	能美健彦	国立医薬品食品衛生研究所	第33回	渡邊正己	長崎大学	長崎	
2005	平成17年			第34回	降旗千恵	青山学院大学	東京	9th ICEM/4th IWGT (サンフランシスコ)
2006	平成18年	若林敬二	国立がんセンター	第35回	八木孝司	大阪府立大学	堺	学会誌英文誌化(Genes and Environment; G&E); コメント試験バリデーション開始
2007	平成19年			第36回	葛西 宏	産業医科大学	北九州	1st ACEM (北九州); 8th ISCA (淡路)
2008	平成20年	八木孝司	大阪府立大学	第37回	林 真	国立医薬品食品衛生研究所	宜野湾	
2009	平成21年			第38回	下位香代子	静岡県立大学	静岡	10th ICEM (フィレンツェ); 5th IWGT (バーゼル)
2010	平成22年	山添 康	東北大学	第39回	青木康展	国立環境研究所	つくば	2nd ACEM (パタヤ)
2011	平成23年			第40回	能美健彦	国立医薬品食品衛生研究所	東京	G&E に BPA 創設
2012	平成24年	葛西 宏	産業医科大学	第41回	若林敬二	静岡県立大学	静岡	ICH ガイドライン (S2(R1)); 3rd ACEM (杭州)
2013	平成25年			第42回	須藤鎮世	就実大学	岡山	11th ICEM/6th IWGT (イグアス)
2014	平成26年	青木康展	国立環境研究所	第43回	宇野芳文	田辺三菱製薬	東京	4th ACEM (コルカタ); コメント試験 OECD TG489
2015	平成27年			第44回	續 輝久	九州大学	福岡	ICH ガイドライン (M7); G&E オープンアクセスオンラインジャーナルに (BMC); Web 選挙開始
2016	平成28年	宇野芳文	田辺三菱製薬	第45回	羽倉昌志	エーザイ	つくば	
2017	平成29年			第46回	濱田修一	LSI メディエンス	東京	12th ICEM/5th ACEM (インチョン); 7th IWGT (東京)
2018	平成30年	本間正充	国立医薬品食品衛生研究所	第47回	松田知成	京都大学	京都	ICH ガイドライン (M7 (R1))
2019	令和元年			第48回	本間正充	国立医薬品食品衛生研究所	東京	6th ACEM (東京)
2020	令和2年	三島雅之	中外製薬	第49回	三島雅之	中外製薬	沼津	G&E: IF1.872 取得
2021	令和3年			第50回	山田雅巳	防衛大学校	横須賀	日本環境変異原ゲノム学会に改称

日本環境変異原ゲノム学会 学会各賞受賞者一覧

西暦	和暦	奨励賞 (1979 [昭和 54 年] ~ 1993 [平成 5 年])・研究奨励賞 (1994 [平成 6 年] ~)			学会賞 (1994 [平成 6 年] ~)			功労賞 (2002 [平成 14 年] ~)		
		氏名	所属	受賞題目	氏名	所属	受賞題目	氏名	所属	受賞題目
1979	昭和 54 年	長尾美奈子	国立がんセンター	食品の変異原因子に関する研究						
1980	昭和 55 年	石館 基	国立衛生試験所	環境変異原および癌原物質の染色体異常によるスクリーニング						
		常盤 寛	福岡県衛生公害センター	大気中の変異原性汚染物質の実態の調査と研究						
1981	昭和 56 年	賀田恒夫	国立遺伝研	環境変異原検出に関する Rec-assay の開発とその応用						
1982	昭和 57 年	松島泰次郎	東京大学	変異原性検出による化学物質の発癌性評価についての研究						
		早津彦哉	岡山大学	環境中の変異原物質の作用機作に関する化学的研究						
1983	昭和 58 年	葛西 宏	国立がんセンター	加熱食品中の強力な変異原イミダゾキノリンおよびイミダゾキノサリンの発見						
1984	昭和 59 年	大西克成	徳島大学	環境中のニトロピレン類の検出および代謝に関する研究						
1985	昭和 60 年	若林敬二	国立がんセンター	食品中の新しい変異原前駆物質の研究						
		林 真	国立衛生試験所	In vivo 小核試験法の基礎と応用に関する研究						
1986	昭和 61 年	森本兼囊	大阪大学	ヒト末梢リンパ球における姉妹染色分体交換 (SCE) 誘発に関する研究						
1987	昭和 62 年	梁 治子	大阪大学	ショウジョウバエによる環境変異原検出系に関する研究						
		藤川和男	武田薬品工業	ショウジョウバエによる環境変異原検出系に関する研究						
1988	昭和 63 年	土川 清	国立遺伝研	マウス・スポットテスト系の確立						
		降旗千恵	東京大学	環境変異原・癌原物質の in vivo 短期評価法の開発と応用						
1989	平成元年	山添 康	慶応義塾大学	環境変異原の酵素的活性化機構の研究						
		有元佐賀恵	岡山大学	ポリフィリン類による多環性化合物の変異原活性阻害の研究						
1990	平成 2 年	祖父尼俊雄	国立衛生試験所	哺乳動物試験に影響を及ぼす要因の解析とその協力研究の推進						
		巽 紘一	京都大学	ヒト細胞を用いた環境変異原の検出と作用機構						
1991	平成 3 年	渡部 烈	東京薬科大学	メチル基置換芳香族炭化水素の代謝的活性化						
		菊川清見	東京薬科大学	食品・医薬品由来の変異原物質の分離・同定とその生成機構						
1992	平成 4 年	能美健彦	国立衛生試験所	ニトロアレーン、芳香族アミンに高感受性を示すサルモネラ菌株の開発						
1993	平成 5 年	鎌滝哲也	北海道大学	変異原物質の代謝的活性化に関与するチトクローム P-450 の基礎的・応用的研究						
		木内武美	徳島大学	変異原物質の腸内菌による代謝に関する研究						
1994	平成 6 年	糠谷東雄	静岡県立大学	食品中の変異原物質の分離同定						
		太田敏博	東京薬科大学	香料成分の抗変異原性作用機構	杉村 隆	国立がんセンター	ヘテロサイクリックアミンの変異・がん原性に関する研究			
1995	平成 7 年	高橋和彦	名古屋市立大学	アルキル化剤による変異誘発に対する修飾作用の分子機構						
		荒木明宏	日本バイオアッセイ研究センター	気相曝露による微生物変異原性試験法の開発とその利用	松島泰次郎	日本バイオアッセイ研究センター	変異原検出系とがん原性評価についての研究			
1996	平成 8 年	下位香代子	静岡県立大学	突然変異修飾因子の検索とその作用機構に関する研究						
		根岸友恵	岡山大学	ショウジョウバエを用いた変異原性修飾因子の研究	早津彦哉	岡山大学	環境中の変異原の検出とその抑制因子に関する研究			
1997	平成 9 年	森田 健	日本グラクソ	染色体異常試験における培養環境の研究						
		世良暢之	福岡県保健環境研究所	ニトロアレーンの構造・変異活性相関およびヒト曝露の実態	石館 基	オリンパス光学工業	染色体異常を指標としたがん原性物質検出法の開発と評価			
1998	平成 10 年	佐々木有	八戸高専	コメットアッセイを用いたマウス多臓器 DNA 損傷の検出						
		山田雅巳	国立衛研	遺伝子工学的手法を用いたアルキル化剤高感受性サルモネラ試験菌株の作製とその応用	黒田行昭	国立遺伝研	哺乳類培養細胞を用いた遺伝子突然変異の検出と抑制に関する研究			
1999	平成 11 年	宇野芳文	三菱東京製薬	複製 DNA 合成 (RDS) 試験法を応用した非変異・肝癌原性物質の検出系確立	長尾美奈子	東京農業大学	食品中変異原・癌原物質の発見と発がん機構の分子生物学的研究			
		渡辺徹志	京都薬科大学	大気・土壌中の変異原物質の定量的評価に関する研究						
2000	平成 12 年	布柴達男	東北大学	大腸菌の活性酸素防御応答と突然変異誘発機構に関する研究	祖父尼俊雄	ノバスジーン	変異原研究領域におけるレギュラトリーサイエンスの確立			
		本間正充	国立衛研	がん抑制遺伝子 p53 の組換え修復を介した遺伝的安定化機構						
2001	平成 13 年	平本一幸	東京薬科大学	フリーラジカルを経由する環境変異・発がん物質の生成と発現に関する研究	大西克成	徳島大学	変異・癌原性物質の産生・代謝とその活性抑制に関する研究			
		若田明裕	山之内製薬	げつ菌類の培養細胞と個体を用いる小核試験法の検討						
2002	平成 14 年	鈴木孝昌	国立衛研	トランスジェニックマウス変異原性試験の有用性に関する研究						
		赤沼三恵	残留農薬研究所	大腸菌における突然変異スペクトルの簡易解析法の開発に関する研究	木苗直秀	静岡県立大学	生活環境中の変異原物質の分離同定とそれらの腫瘍発生との関連性に関する研究	菊池康基	国際医薬品臨床開発研究所	In vivo 遺伝毒性試験の基礎的研究とガイドラインへの適応

2003	平成 15 年	羽倉昌志	エーザイ	化学物質による in vitro および in vivo における突然変異の定量的解析に関する研究	菊川清見	東京薬科大学	食品中の変異・発がん物質の生成と DNA 損傷性およびその低減に関する有機化学的研究			
		戸塚ゆ加里	国立がんセンター	Norharman の co-mutagenic 作用機構に関する研究						
2004	平成 16 年	高村(塩谷)岳樹	国立がんセンター	環境から分離した新規変異原物質の DNA 修飾に関する研究	林 真	国立衛研	げっ歯類を用いる小核試験の基礎研究ならびにその行政面への応用	田中憲穂	食品薬品安全センター	生殖細胞および培養細胞を用いた遺伝毒性試験法の開発と国際標準化への貢献
								西岡 一	京都バイオサイエンス研究所	変異原および抗変異原の作用機構に関する研究とその振興
2005	平成 17 年	石川さと子	共立薬科大学	N-ニトロ化合物の活性化体の性質に基づいた制がん性リード化合物の創製	鎌滝哲也	北海道大学	環境変異原物質の代謝活性化に関わる酵素の分子生物学および分子疫学の研究			
		福原 潔	国立衛研	抗変異原物質をめぐしたカテキン類の平面固定化反応に関する研究						
2006	平成 18 年	及川伸二	三重大学	癌原物質および抗酸化物質による DNA 酸化損傷機構の解析	能美健彦	国立衛研	環境変異原物質の新規検出系の作出および Y ファミリー DNA ポリメラーゼの分子遺伝学的解析	鳥田弘康	第一製薬	医薬品の安全性評価における各種遺伝毒性試験の適用と国際調和への貢献
		紙谷浩之	北海道大学	DNA 前駆体の酸化損傷による変異の分子機構とその防御システムの解明						
2007	平成 19 年	倉岡 功	九州がんセンター	ヒト細胞における DNA 損傷のスクレオチド除去修復機構に関する研究	葛西 宏	産業医科大学	DNA 酸化損傷としての 8-ヒドロキシデオキシグアノシンの発見とその生物学的意義			
		中村孝志	京都府立大学	京野菜に含まれる抗変異原の同定とその作用機構						
2008	平成 20 年	増村健一	国立衛研	gpt delta トランスジェニックマウス試験系を用いた点突然変異と欠失変異の選択的検出	若林敬二	国立がんセンター	環境中に存在するがんの原因物質に関する有機化学的、分子生物学的研究	望月正隆	東京理科大学	有機化学的アプローチによる環境変異原の作用機構解析と制がん研究への応用
		松田知成	京都大学	LC/MS/MS を用いた DNA 付加体の網羅的解析に関する研究						
2009	平成 21 年	三浦大志郎	帝人ファーマ	内在性 Pig-A 遺伝子をレポーターとする in vivo 遺伝子突然変異評価系の開発	川西正祐	鹿鹿医療科学大学	環境変異・発がん因子による活性酸素と活性窒素の生成を介した DNA 損傷機構	浅野哲秀	大阪女学院短期大学	In vivo 遺伝毒性試験の発展と学術交流への貢献
2010	平成 22 年	竹入 章	中外製薬	gpt delta マウスおよびその由来細胞を用いた DNA クロスリンク剤の変異誘発機構	降旗千恵	国立衛研	環境変異原・がん原物質の臓器特異的短期評価法に関する研究			
2011	平成 23 年	伊吹裕子	静岡県立大学	ヒストン修飾を指標とした環境化学物質と光の複合影響に関する研究	八木孝司	大阪府立大学	シャトルベクタープラスミドを用いた哺乳類細胞突然変異解析系の構築と応用			
2012	平成 24 年	稲見圭子	東京理科大学	化学モデル系を用いた代謝活性化機構の解明とその応用	山添 康	東北大学	薬物代謝評価系の開発および基質特異性予測の研究	長尾美奈子	慶應義塾大学	Genes and Environment のレベル向上および国際化への貢献
								澁谷 徹	Tox21 研究所	生殖細胞の突然変異研究および環境エビゲノミクス研究の推進
2013	平成 25 年	川西優喜	大阪府立大学	大気由来する多環芳香族炭化水素による突然変異生成メカニズムの研究	下位香代子	静岡県立大学	植物成分の抗変異原性効果に関する遺伝学的生化学的研究			
		安井 学	国立衛研	DNA 付加体を部位特異的に含む DNA オリゴマーの構築とその突然変異誘発機構の解析						
2014	平成 26 年	成見香瑞範	ヤクルト本社	成熟ラットを用いた反復投与肝小核試験法の開発に関する研究	根岸友恵	岡山大学	ショウジョウバエを用いた紫外線およびアルキル化剤誘発 DNA 損傷とその修復機構に関する研究	高橋和彦	横浜薬科大学	変異機構研究会の継続的開催を通じた若手研究者育成への貢献
								林 真	食品農薬薬品安全性評価センター	レギュラトリーサイエンスにおける遺伝毒性試験の国際的協調に対する貢献
2015	平成 27 年	和田邦生	残留農薬研究所	コメットアッセイを用いた膀胱上皮細胞における遺伝毒性評価法の開発	本間正充	国立衛研	部位特異的損傷をゲノム中に導入したヒト細胞における突然変異誘発機構の研究			
		喜納克仁	徳島文理大学	グアニン酸化損傷の生成およびその修復・複製に関する研究						
2016	平成 28 年	松崎香織	中外製薬	γ H2AX を指標とした異数性誘発物質の新規検出法の確立とその医薬品開発への応用	青木康展	国立環境研	環境変異原によって誘発された生体内突然変異の解析とそのリスク評価	小田美光	大阪信愛女学院短期大学	微生物の SOS 反応を利用した umu 試験の開発とその国際貢献
2017	平成 29 年	松田 俊	富士フィルム	DNA 損傷応答の定量化および可視化に関する研究	續 輝久	九州大学	遺伝子改変マウスを用いた酸化 DNA 損傷に起因する発がん機序の解明	森田 健	国立衛研	遺伝毒性試験法の最適化と国際標準への貢献
2018	平成 30 年	木本崇文	帝人ファーマ	Pig-a アッセイの標準化に関する研究：PIGRET 法の開発および技術基盤の確立	宇野芳文	田辺三菱製薬	遺伝毒性作用機序に基づくリスク評価と in vivo コメットアッセイの国際的な標準化に関する研究			
		堀端克良	国立衛研	Pig-a アッセイの標準化に関する研究：バリデーション研究の推進とヒトへの適用						
2019	令和元年	石井雄二	国立衛研	遺伝子改変げっ歯類を用いる DNA 付加体解析を始めとする遺伝毒性機序解明	紙谷浩之	広島大学	損傷 DNA およびその前駆体を用いる変異の誘発および抑制機構の解明			
		本田大士	花王	遺伝毒性発がん性予測への機械学習の適用						
2020	令和 2 年	鈴木哲矢	広島大学	遺伝子改変細胞を用いた変異誘発制御の分子機構の解明	濱田修一	ボソリサーチセンター	一般毒性試験への組み込みを可能としたラット反復投与赤血球・肝臓小核試験の開発	加藤雅之	シミックファーマサイエンス	Ames 試験の精度および信頼性向上への貢献
		堀妃佐子	サントリー MONOZUKURI エキスパート	動物 3R を考慮したトランスジェニックラット包括的遺伝毒性試験系の構築						
2021	令和 3 年	岡本誉士典	名城大学	DNA 損傷に着目した人工エストロゲンの発がんリスク低減に関する基盤研究	鈴木孝昌	国立衛研	トランスジェニック動物およびオミクス解析を基盤とした新たな変異原性研究の確立	松元輝六	残留農薬研究所	多色 FISH による染色体異常新規検出系の確立ならびにレギュラトリーサイエンスにおける in vivo 試験系の精度向上に対する貢献
		橋本清弘	武田薬品工業	小核試験の標準化に向けた TK6 細胞の異数性小核誘発機構に関する研究						